

日本のNO.1コーティングとして **タイ・バンコク洗車・コーティングレポート**

タイ・バンコクにキーパーコーティングを取扱いたいという企業があり、洗車・コーティングビジネスのマーケットと可能性を探るべく、アイ・タック技研の畠中修が現地へ飛んだ。

タイ(バンコク)は想像以上にキレイな街だった。人々も、日本の都市と対して変わらない雰囲気でおしゃれだし、明るい。日本の企業がたくさん進出しており、日本車がとにかく多い。街ゆく車はほぼ日本車で、一部欧州車が走っている。トヨタ車とホンダ車が多く、日産車がそのあとを追う。政策でタイの国産車を作るより、関税をキッチリかけて収入を得た方が良いとの考えらしい。輸入車は200%の関税がかかる。例えば日本で2,000万円の高級車は2,000万円の車代+関税が4,000万円=6,000万円となる。貧富の差はやはり大きい。



洗車は質より数という感じ

洗車屋さんには街のいたるところにある。洗車は150パーツ(約480円)~400パーツ(約1,280円)、WAXが350パーツ(約1,120円)~500パーツ(約1,600円)。値段の差は立地の差。デパートの駐車場などで行っている洗車は高い。だが洗車ビジネスは数をこなすなりに、利益につながらないようだ。スタッフも質より数という感じ。試しにデパートの地下で洗車を依頼したが、10人ぐらいでまとめてやっていた。かたや、コーティングビジネスはニッチだ。超高級車を15~30万円ぐらい出して

コーティングする人がいる。この人たちは家のお手頃さんがいるので、車も洗ってもらっているようだ。今後タイでキーパーコーティングを取扱いたいと先日、日本にて研修などを受けに来てくれたCTSという会社は現在、超高級車(スーパーカーやラグジュアリーカー)をターゲットに商売を展開し、驚くほど素晴らしい実績を出している。ニッチなマーケットだが、信頼を勝ち得ている。

CTS社長のシナポールさんは「洗車だけでは商売として面白くない。超高級車だけではマーケットが少ない。キーパーコーティングはマーケットも大きく日本のNo.1のコーティングとしてタイに受け入れられると確信している」という。日本製の信頼は高い。キーパーコーティングのマニュアルが確立されていることも期待のひとつ。技術者を多く輩出し、多店舗展開もねらっている。既にキーパープロショップを作りたいという場所が2ヶ所。1ヶ所は高級住宅街の表通りの目立つ場所で、更地から作る構想だ。もう1ヶ所はホンダのディーラーの横に位置しており、板金サービスセンターとコーヒースhopとコーティングセンターが並ぶ予定の場所だ。既に建物はあり、これから改装工事に取り掛かる。タイという新しい地で、クルマをキレイにする新しいビジネスが始まりそうだ。



バンコク市内から北に約30分のところにあるCTSの2号店



CTSの1号店



バンコク市内から10分ぐらいで素晴らしい立地



ボディプロテクションフィルムも取り扱っている



車販売や整備などの商売が集まっているモールのような



日本でコーティング技術1級資格を取得したノックさん



CTS社長のシナポールさん(左)とノックさん

Technical information

技術情報

ブレーキダストクリーナーは、水をかけるのではなく「洗い流してキレイにする」。

キーパーラボの店舗でお客様にお叱りを受けました

キーパーラボの店舗で、水で洗い流すという簡単な作業がいい加減になされ、汚れやケミカルが残っていて、お客様にお叱りを受けることがありました。手洗い洗車の作業工程で、ホイールを洗い流す作業があります。これはホイールをキレイに仕上げるために、ケミカルを吹きかけたのち、水で洗い流すという、コーティングや手洗い洗車、全てのメニューの一番初めに行う洗車の「基本作業」の一つです。

ブレーキダストクリーナーを使用するとブレーキダストの汚れが簡単に落とせる

ホイールに使用するケミカルは「ブレーキダストクリーナー(BDC)」というものです。ホイールに付着したブレーキダストは、錆びることによって(酸化鉄となつて)付着しています。ブレーキダストクリーナーのチオグリコール酸ナトリウムが反応し、赤・紫色の水溶性物質となり、水で流れ落ちるようにして、ブレーキ

ダストの汚れを「簡単に」落とします。この「ブレーキダストクリーナーをかけて、ホイールを水で洗い流す」という作業は、難しい作業ではありません。ブレーキダストクリーナーを使用すると、作業効率が確実に上がり、キレイに仕上がります。



BDCと錆が反応し、赤くなっている



しっかり洗い流すと汚れが簡単にキレイに落ちる

「洗い流してキレイにする」作業のほすが、ただ「水をかける」行為に

しかし、これが毎日何十台と同じ作業で仕上げていると、変に「慣れ」が出てきてしまい、「洗い流してキレイ

にする」作業のほすが、ただ「水をかける」行為に化けてしまうことがあります。洗い流せたか、キレイになったか「目」で確認することなく、ただ「水をかけた」だけ終わらせてしまうのです。

基本をキチンと振り返り、強い技術として見直すこと、鍛え直すこと

お客様に喜んでいただく作業には、ケミカルとしての材料の優秀性と、確実な施工技術が必要です。簡単な作業こそ、ついおろそかになって、お客様に無用な不快を与えることがあります。いつも行っている基本的な作業を、基本どおりにきちんと行うことは、意外と難しいことです。お客様に、いつも満足していただくためには、「一台一台を真剣に施工すること」を確実に繰り返し、「初心に帰って、基本を振り返り、強い技術として見直すこと、鍛え直すこと」が大切です。



窓ガラスを看板として活用しませんか？ 窓ガラス用「メッシュシート」

給油のお客様からよく見えるゲストルームの窓を看板として有効活用するお店が増えています。よく使われているのが「窓ガラス用メッシュシート」です。

外からは見えませんが



中からは外は見え



窓ガラス用メッシュシート施工例

直径約2mmの穴が規則的に空いたこのシート、店内(暗いところ)から店外(明るいところ)は良く見えるが逆に外からはほとんど見えないという特徴を持っています。そのため、視認性を確保したいスタッフルームの窓やセルフSSの操作室などに使われています。



サイズ・デザインも自由自在です。詳しくは担当営業へご相談ください。